



■ 山 | 梨 | 大 | 学 | | 新 | 技 | 術 | 情 | 報 | ク | ラ | ブ |



～インフォメーション～

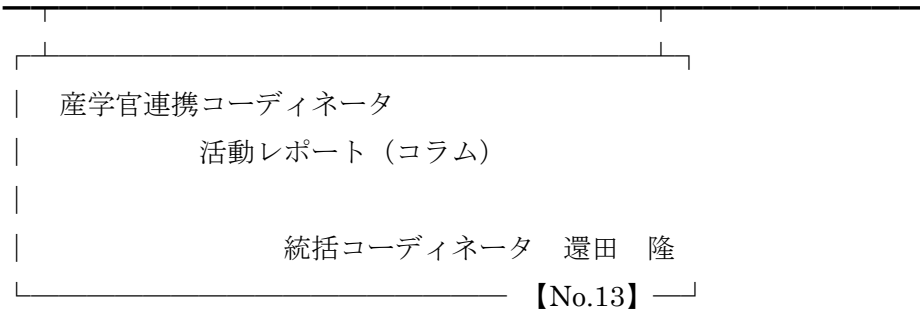


【第 26-5 号】



本メールマガジンは山梨大学 新技術情報クラブ会員の皆様へ
最新情報をお知らせする目的で配信しております。

メール配信を希望されない方は、「配信停止」とお書きの上、ご返信ください。



会員の皆様には日ごろご支援をいただき誠にありがとうございます。

早速ですが、皆様のお手元に幣学研究者のチラシ冊子が届きましたでしょうか。

もし届いていない会員様がおられましたらお申し出ください。

また、今回は分野別分冊になっておりますので、

欲しい分野が見当たらない場合もお申し出頂ければと存じます。

先日、事務局からメールマガジンを配信させていただきました折に、

大学コーディネータが（内容に応じて研究者と）貴社ご訪問というご連絡を申し上げました。

主旨を簡単にご説明申し上げますと、

現在の会員様では広い業種の事業に亘っておりまして、

なかなか統一的なテーマでの情報提供が難しい状況です。

そこで、各会員企業様毎に内容を調整して、情報提供やご支援を準備したいという企画で

ございます。

一方で年度末までには、総会を兼ねた全体交流会を開きたいとも考えております。

まずは、お送りしました研究者冊子をご覧くださいまして、

面談してみたい研究者がございましたらお知らせください。

研究者も合わせて日程調整のうえ訪問をさせて頂く予定です。

大学コーディネータは、服部、奥脇、最上、還田で

1人または2人が会員様毎に担当させていただきます。

また今回は単発実施ですが、内容が固まり継続して連携したいというご希望に至りましたら、

別途計画をさせて頂く予定です。

この場合、技術支援だけではなく数回に分けた社員教育なども視野に入れております。

会員様の方からの企画も歓迎しておりますので、ご希望の連絡をお待ちいたします。

さて、以上はお知らせでしたが、少しでも大学の現状をお伝えしようと思っております。まずはトピックから。

【学長選挙】

プレスに掲載された内容なのでご存知かもしれませんが、

現在本学では次期（2015年度）学長の選出作業を進めております。

未だ決定されておりましたが、今月中下旬に公表される予定となっております。

プレス発表される予定ですので、お見逃しなく。

【大学院の改組】

2012年4月に生命環境学部が設置されました。初年度入学の学生もはや3年生になりました。

このコースの学生向けにも大学院が必要となりますので、その準備をしております。

組織変更の形ではありますが、文部科学省の審議会に諮る必要があります。

準備として待ったなしとなっております。

来年度までに許可を得てすぐ要項を作りを作り、

来年度に入ると早々に大学院入学試験の準備に入らねばならないからです。

この布石としまして、去る10月1日に現状の名称である

「大学院医学工学総合研究部」の名称を「大学院総合研究部」に改めました。

現在全ての本学研究者はこの「大学院総合研究部」に所属致しております。

【JSTさきがけ採択情報】

本競争資金は、名前からお分かりのように先端的発想の研究を採択するものでありまして、10倍弱の競争率になっている公募です。

下記にリンクを掲載いたしましたので、ご関心がある方はお問い合わせください。但し、研究はこれから開始されますので、直ぐの成果利用は難しいかもしれません。

<http://www.yamanashi.ac.jp/modules/information/index.php?page=article&storyid=824>

● 次は、私が最近感じていることを書いてみたいと思います。

多少以前書いたコラムに重複いたしますが、文部科学省が大学(特に地方の大学)に求めてきている流れがあります。

2013年度に文部科学省は「研究大学強化事業」として19大学と3研究機関を指名しました。

予算の選択と集中を行うことで世界のTOP100大学に10校を入れるという看板です。本学も立候補したのですが、残念ながら選ばれませんでした。

選ばれた大学には2から4億円の幅で研究費が投入されます。

またこれとは別に、文部科学省は「大学ごとの特色を」という内容でヒアリングを行って来ております。

地域の大学に対しては「地域貢献大学」あるいは「教育大学」などと言ったカラーも求められつつあります。

この流れを睨みながら、本学も8月にCOC (Center Of Community) 地域の申請に採択を受けまして、活動の準備を開始いたしました。

いずれ詳細はプレスを通じて公表されますが、すでに発表された速報としまして簡単に書きますと、

- (1) 「食」の地域ブランド化
- (2) 次世代農業創出
- (3) 美しい里づくり

について、教育研究を推進し、もって山梨県を中心とした地域の活性化へ貢献するものです。

さて、地域貢献を定義する指標の中には、地域に卒業生が何割就職するのかという指標があります。

地域から何割入学するのもあります。

未だ文部科学省は本格的にこの指標を採用しておりませんが、一部の雑誌記事では得点化して地域貢献大学のランキングを発表しております。
(2012年 2013年連続で信州大学が1位)

遅蒔きながら本学も分析に乗り出しております。まだご報告できる内容はございませんが、他県調査をする中で特筆するのは、「平成23年度福井県の有効求人倍率が日本一」との記事がありました。

(日本銀行福井事務所長、松原淳一氏 「福井県の産業構造と新成長戦略」より)
福井県が日本一なのはこのほか、人口一人当たりの事業所数、出生地別人口10万人当たりの社長排出数、共働き世帯比率、女性の月間平均実労働時間、全世帯の自動車保有台数、などがあるそうです。諸事情があると思いますが、ちょっとびっくりです。
(福井県と福井大学は、本県と本学に似た規模なので注目しております)

ところですでに述べました通り、本学では現在次期学長選出途中で来年度以降の大きな流れは

私には不明ですが、本学が採択を受けたCOCは全力で全うする構え
(COC推進センター：センター長は生命環境学部長の早川先生、が設立されました)でありますし、
また、来年予定されている県知事選や市長選の行く末も目が離せません。
そして、
大学の質向上と地域力の底上げと両輪で進んで行く事へ、住民総力戦であるとはいえ、私も微力ながら参加していきたいと思っております。

(文責：統括コーディネータ 還田 隆)

□ ■

■ 技術シーズが紹介されています!!

やまなし技術の宝石箱

<http://www.pref.yamanashi.jp/seichosng/techno-jewel-box/index.html>

山梨中央銀行 山梨大学発"ビジネスチャンス"直行便！

<http://www.yamanashibank.co.jp/hojin/service/shien/765.html>

↓↓↓↓↓↓↓↓

この内容をご覧になって関心がある研究者が見つかりましたら、
面談設定も可能ですので是非ご一報ください。



▼ 連絡先

国立大学法人山梨大学
社会連携・研究支援機構
社会連携・知財管理センター
新技術情報クラブ事務局

TEL:055-220-8758

FAX:055-220-8757

renkei-as@yamanashi.ac.jp



- 1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
- 2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。